

令和7年度

授業改善推進プラン

本校では「授業改善推進プラン」に基づき、こどもたちの学力向上に向けた授業改善を推進しています。

令和7年度「全国学力・学習状況調査」（6年）及び「大田区学習効果測定」（4年から6年）の調査結果や日頃の授業での児童の様子や振り返りを踏まえ、授業改善推進プランを作成しました。今後とも、さらなる授業改善に取り組んでまいります。

令和7年8月

大田区立大森第四小学校

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校国語科）

1 国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

○成果

- ・低学年は、既習の漢字を繰り返し書くことで、習得率が上がった。
- ・5，6年生の「話すこと・聞くこと」の問題の正答率は、前年度の校内平均正答率を10ポイント上回った。話型や聞く姿勢を示し、話し合い活動を多く取り入れたことにより、相手意識をもって話したり聞いたりすることができるようになってきた。
- ・音読の工夫や動作化など様々な方法を取り入れたことにより、文節で区切って読む児童が減り、すらすら読めるようになってきた。
- ・図書学習司書や図書館と連携を行うことができ、読書への意欲が高まり、年間貸し出し冊数の増加につながった。

○課題

- ・4，5，6年生の「漢字を書く」の問題の正答率が、40%と低い。
- ・正しい助詞や言葉の使い方、正しい文章の書き方を身に付ける必要がある。
- ・文章を正しく読む力が低い。
- ・語彙力が低い。

2 国語科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・ひらがな、カタカナ、漢字を正しく身に付ける。 ・「はをへが」が正しく身に付いていない児童が多い。 ・助詞、促音、長音等の書き表し方が身に付いていない児童がいる。 ・漢字の習得率が低い。 ・語彙が少ない。	・文章を正しく読み取る力が身に付いていない児童が多い。 ・自分の思いや考えを表現することが苦手な児童が多い。	・意欲的に学習する児童とそうでない児童の二極化がある。 ・読書への意欲の差がある。 ・読書活動で、自分の発達段階に合った本を選ぶことができていない児童が見られる。
改善方針	・筆順や漢字の定着を図るために反復学習を行う。 ・主語、述語、助詞などの文法を繰り返し指導する。 ・朝学習を活用し、既習事項を確認する。 ・発達段階に応じて語彙を高める指導を行う。	・文章を叙述に即して読んだり、文章構成を意識して読んだりすることができるように指導する。 ・話型や聞く姿勢については引き続き指導を行い、相手意識をもって話したり聞いたりすることができるようにする。 ・書く活動を増やし、書くことに慣れる機会を作る。また、タブレットを活用し、書く抵抗感を減らしていく。	・必要感をもたせるための課題設定を工夫し、意欲を高める。 ・身に付いた力がどこに生かされているかを児童に伝え、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。 ・読書学習司書との連携を行う。

改善策1年	・言葉を聞いて、正しくひらがなで表記できるようにする。 ・文を書くときは、助詞、促音、長音等の書き表し方に気を付けて書くことを繰り返し指導する。 ・語のまとまりや言葉の響きに気を付けて読む等、音読のめあてを示し家庭学習で音読練習を継続する。 ・はをへがを繰り返し練習する。	・言葉の意味と使い方を覚え、身近なことを表す語句の量を増やしていく。 ・語のまとまりや文の構成を意識し文を書くことができるように、短文作りを取り入れる。 ・一字一字取り上げて、文章から場面や人物の様子を想像して読めるようにする。	・言葉遊びを通して、読むことや書くことへの意欲を高めていく。 ・単元のねらいに沿った読書活動をする。 ・学習計画を示し、学習の見通しをもたせ、学習意欲を高める。
2年	・ノートやワークシートの指導を通して、間違いやすい「は」と「わ」「お」と「を」の使い分けや、促音をしっかり指導する。かたかな表記の言葉の指導を継続する。 ・ノートやドリル、テストで新出漢字の定着を図るとともに、習得した漢字の熟語や文中での使い方を指導し、語彙数を増やしていく。	・自分の考えが明確になるように「はじめ」・「なか」・「おわり」の構成を意識して文章を書かせる。 ・文章の内容の大体を捉えられるように、順序や行動を表す言葉に着目して音読させる。 ・互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐ話し合い活動の素地を作る。	・司書による読み聞かせや本の紹介を通して、読書に対する意識や態度を高めていく。 ・友達の感想を紹介することで、いろいろな本に興味を抱けるようにする。 ・本の紹介文やおもちゃの作り方など、児童が意欲的に取り組める課題を設定する。
3年	・自分の考えをノートに書いたり、伝え合ったりする活動を意図的に取り入れる。 ・語彙力や知識を増やすために、言葉で表現したり違う言い方を考えたりする活動を通して言語活動の充実を図る。	・文章を正確に読み取るための方法を教えたり、全体で内容の確認をしたりして、読解力を高める。 ・日常的に話の要点を意識して聞くよう指導する。 ・自分の考えを書いた文章を読み返し、正しい表現に直したり、よりよい文章にしたりすることができるように指導する。	・学習した言葉を使って話したり書いたりすることができた場面を価値付け、評価する。 ・自分が興味をもった本を選び、読書活動に親しむことができるように、週1回程度、図書室に行く機会を設ける。
4年	・漢字の小テストを行い、繰り返し継続して指導する。 ・語彙力や知識を増やすために、図書の時間を確保し、繰り返し言語活動の充実を図る。	・文章を正確に読み取るための方法を指導し、全体で内容の確認をしたりして読み取る学習を行う。 ・自分の考えを書いた文章を読み返し、正しい表現に直したり、より良い文章にしたりすることができるように指導する。	・より良い表現や文章を学級全体で紹介し、表現力を伸ばす。 ・自分が興味をもった本を選び、読書活動に親しむことができるように、週1回程度、図書室に行く機会を設ける。

5年	・漢字学習は、漢字の書き方だけではなく、使い方についても重点的に指導し、文の中で使えるようにする。 ・語彙を増やし、言葉の使い方に対する感覚を意識して語句を使えるように指導する。	・自分の考えが伝わるような文章の書き方を具体的に指導する。 ・事実と感想、意見とを区別して書く方法を具体的に指導する。 ・意見文や感想文を友達と共有させることで、考えを広げるようにする。	・本の紹介や読み聞かせをしたり、読書の良さを定期的に伝えたりすることで、すすんで読書できるようにする。 ・タブレットを使用する機会を増やしたり、遊びを取り入れたりして、子供が興味をもつような取り組みをする。
6年	・授業の始めに漢字学習を行う時間を作り、反復練習を行う。 ・漢字小テストを活用し、合格点を決めて取り組む。間違えた問題の直しをさせ、知識を確実なものにする。漢字の復習テストを定期的に行い、定着を図る。 ・意味の分からない言葉は辞書を用いて確認し、語彙を増やす。	・登場人物の心情の読み取りを丁寧に行う。 ・文章構成を意識して書く課題を定期的に出していく。また、タブレットを活用することで書くことへの抵抗感を減らしていく。	・学習計画や、つきたい力などを共有し、見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。 ・学校図書館を積極的に利用し読書に親しむ機会を設ける。

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校社会科）

1 社会科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

○成果

学力効果測定の設定は各項目、目標値を下回っていた。以下は日頃の授業における成果である。

- ・ 児童自ら問いをもち、学びに向かう姿勢が見られた。
- ・ 学習の見通しをもって調べ学習に取り組めた。
- ・ 図書資料やインターネットを使って主体的に情報収集できた。
- ・ 児童同時で意見交換しながら、互いの考えを広げていた。
- ・ 調べたことを整理し、自分の言葉でまとめる姿があった。
- ・ 振り返りカード等を活発し、自らの学びを言語化しようとしていた。

○課題

- ・ 4～6年を通して、資料を読み取る問題に対して、無回答率が高いこと。問題の意図が分からないもしくは、学びに気持ちが向かず、解かなかった児童が多数いる。

2 社会科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・ 地図記号や八方位、都道府県の名前と位置など、社会科に関する基本的な用語を理解する力に課題が見られる。 ・ 人々のくらしや、産業についての役割や特徴、工夫について理解する力に課題が見られる。	・ 授業の中で学習したことをテストにおける出題のねらいと関連付けて、適切な資料を判断する力。 ・ 写真や表などの資料から情報を読み取り表現する力に課題が見られる。	・ 授業において、課題に対する取り組み方に差が見られる。 ・ 学習したことを振り返り、自分の生活に関連付けることに課題が見られる。
改善方針	・ 年度当初から、繰り返し指導をしていく。方位と地図記号については3年生、八方位と都道府県については4年生での定着を目指したい。 ・ 資料に出てくる言葉を分かりやすくしたり、教えたりして、内容が分かるようにしていく。	・ 学習課題をまとめる際、単元の内容に関わる資料を確認する時間を設定する。 ・ 写真や表などの資料から情報を読み取り、話し合う活動を意図的に設定し、自分とは異なる考えに触れることを通して、考えが深められるようにする。	・ 単元導入時に提示する資料を工夫したり、調べるための問を立てたりして、児童の興味関心を高める工夫をする。 ・ まとめや振り返りで自分の生活とつなげて考えている児童を価値付ける。
改善策 3年	・ 用語を使って説明したり自分の考えを書かせたりする中で用語の理解と定着を図る。 ・ 写真や表から情報を読み取る時のポイントを丁寧に指導する。	・ 資料から読み取ったことを基に、問題について自分の考えをもたせる。 ・ 自分の考えを伝え合う機会を設けるなど、問題について話し合う活動を取り入れる。	・ 教科書の資料だけではなく、教員が教材を工夫して提示する。 ・ 自分の生活と照らし合わせて考えられるような発問をする。

4年	・国語と関連させ、定期的に「都道府県テスト」をする。 ・タブレットのドリルパークを活用する。 ・興味、関心をもつような問題を投げかける。	・資料から読み取ったことを基に、問題について自分の考えをもたせる。 ・自分の考えを伝え合う機会を設けるなど、問題について話し合う活動を取り入れる。	・教科書の資料だけではなく、教員がICT教材を工夫して提示する。 ・自分の生活と照らし合わせて考えられるような発問をする。 ・タブレットを活用した学習を行う。
5年	・地図や資料の見方、情報の集め方を丁寧に指導する。 ・社会科における大事な言葉を丁寧に押さえる。	・比較したり、既存の知識と関連付けたりして、自分の考えをもたせるようにする。	・自分たちの生活と関連付けて考えさせることで、興味をもたせる。
6年	・資料やグラフの読み取り方、年表の見方を丁寧に指導する。 ・どの資料から分かったことなのかを授業中に確認する。 ・前時の復習をするとともに、授業の要点をまとめ、知識を確実なものにする。	・理由を考え表現する活動に取り組み、分かったことを根拠にして自分の考えがもてるようにする。 ・学習して分かったことや考えたことを言葉でまとめる活動を意図的に設定し、自分の考えを表現できるようにする。	・児童にとって身近な教材や、意外性のある教材を提示して、児童の関心や意欲を高める。

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校算数科）

1 算数における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

○成果

- ・朝学習や家庭学習も使いながら、基本的な計算を繰り返し練習することで、正しく計算することができる児童が増えてきている。簡単な加減乗除の計算など基本的な計算力は身に付き始めている。
- ・少人数の習熟度別の学習を通して、多くの児童が前向きに学習に取り組んでいる。
- ・5年生は、大田区効果測定目標値（65.9%）と比べると校内平均が、「がい数の表し方」は68.8%、「小数」は72.5%、「分数」は78.3%と上回っている。
- ・6年生の大田区学習効果測定「活用」の問題の正答率が前年度の校内平均率41.5%から50%に上昇した。学習の最初に見通しを確認したり、既習事項を使って自分の考えをまとめさせたりするようにした成果だと考える。

○課題

- ・10以上の計算、かけ算九九など基礎となる計算を定着させていくこと。
- ・正確に文章問題を読み取り、立式につなげていく指導を工夫していくこと。
- ・図形についての理解が未熟な児童に対する指導を工夫していくこと。
- ・量感が伴わず、単位換算が不得意な児童が多い。単位についての実感を伴った理解を育っていく。
- ・5年生は大田区効果測定の結果では、10項目中6項目が目標値を下回っている。前学年までの既習事項を確実に定着させる必要がある。個の実態を把握し、定着していない内容を個別に補っていくようにする。
- ・6年生では、「整数のなかま分け」の正答率が、目標値を大幅に下回った。整数のなかまを正しく理解し、授業で計算力を高めるために繰り返し計算練習をする場面を設けていく。
- ・「面積」「円グラフや帯グラフ・平均」の正答率が、目標値を大幅に下回った。特に「面積を求める式」「体積を求める式」の理解を図る問題の正答率が目標値の半分以下であった。学習内容が変わると、既習事項を忘れてしまう傾向があるので、定期的に復習する必要がある。

2 算数科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・基本計算の精度をあげる。特にかけ算九九の定着を高める。 ・量感のイメージを育てる。	・文章題から演算決定をし、正しく立式することができるようにする。	・授業への参加意識に差がある、児童の意欲を高めていく指導の工夫。

改善方針	・反復学習や振り返り、朝学習の時間で基礎学力の定着を図る。特に基本的な和差算・かけ算九九の確実な習熟を図る。 ・繰り返し計算練習を繰り返し行い、基礎的計算の定着を図る。 ・未習熟な单元では、学習のポイントを振り返り、再テストを通して習熟する。 ・日常の生活体験に結びつけた学習を通して、量感を掴めるようにする。 ・具体物や具体例を用いて説明したり考えさせたりする。 ・正確に道具を操作して作図をする力を定着させる。 ・大田区学習効果測定の基礎の正当率を区の目標値まで引き上げる。	・具体物を活用して、具体的なイメージをもたせる。 ・問題解決型の学習を積極的に取り入れる。 ・数量の関係を表やグラフを用いて表す活動を取り入れる。 ・既習事項を例示し、いろいろな考え方を検討し、自分の考えがもてるようにする。 ・立式する際には、その理由を考え、筋道立てて書くように指導する。 ・ペアなどで話し合ったり、発表し合ったりする活動を取り入れる。 ・大田区学習効果測定の活用 of 正当率を区の目標値に近づける。	・学習のめあてや見通しを自分たちでとらえ、進んで取り組めるようにする。 ・楽しみながら数や図形の概念を身に付けさせるなど授業スタイルを見直す。 ・スモールステップで授業を展開していく。 ・授業の導入を工夫し、学習への意欲を育てる。 ・タブレット端末を使って、自分に合った学習を繰り返し行っていく。また、児童が集中して学習できるよう活用していく。 ・生活に根差した状況を用いて課題設定をし、興味関心をもって学習に取り組めるようにする。 ・自分が気になったところや間違えたところを自分で気づき、改善する練習を繰り返し行う。
改善策1年	・ブロック操作や具体物による計算練習に取り組む。 ・10 になる組み合わせ及び計算練習の反復練習に取り組む。	・ブロック操作などの具体物による状況把握を通して、加減の判断に取り組む。 ・和差算の混在した文章問題プリントに繰り返し取り組む。	・授業開始時にめあてを提示し、本時の目標を意識させる。 ・デジタル教科書などの視聴覚教材を使用し、スモールステップで進めていく。
2年	・具体物などを用いて、100 がいくつ分・10 がいくつ分という表現方法やかけ算の仕組みなどの理解を深めさせる。 ・適切な計算が用いられる場面を具体的にイメージさせ、繰り返し取り組ませる。	・図や具体物を用いて、ペアやグループで話し合うことで、問題の内容が具体的にイメージできるようにさせる。 ・自分の考えに根拠をもつことができるよう、ペアで話し合う場面を意識的に多く設け、友達の考えと比較したり、再考したりする場面を作る。	・授業開始時に前時の既習を確認し、学習のスタートをそろえる。 ・主体的に楽しみながら個に応じた課題を解決できるように、タブレット端末の使用法や使用場面を工夫する。 ・自分の生活に数理的な処理を生かす場面を作る。

3年	・授業の初めに百マス計算等を行い、九九の定着を図る。 ・授業中に練習問題に必ず取り組み、できていない児童には個別に説明する。 ・理解が不十分な単元には、ポイントを説明し、再テストを行い、計算する力を高める。	・動作化したり、図にして表現させたりして、問題場面を正しくとらえられるようにする。 ・自分の考えをノートに書いたり、友達同士で発表し合ったりする時間を設ける。	・学習の最初に、見通しを児童に出させ、主体的に取り組めるようにする。 ・問題場面を身近な生活体験と結びつけて提示し、実感をもって課題を捉えられるようにする。
4年	・習熟度別の授業展開。 ・単元ごとの補習。 ・スモールステップを意識した計算練習。	・自分の考えをノートやタブレットに書いたり、友達同士で発表し合ったりする時間を設ける。	・授業の見通しをもたせ、主体的に取り組めるようにする。 ・問題場面を身近な生活体験と結び付けて提示し、実感をもって課題を捉えられるようにする。
5年	・基礎的な問題が確実にできるように丁寧に個別指導する。 ・宿題を活用し、その日に習ったことが確実に定着するようにする。また、ドリルパークを活用していく。	・文章題については、問題の意味に着目するように指導する。何を求めるのか、またどのような計算式になるのかを数直線を用いて考えさせる。	・既習事項を確認し、習ったことを用いて、立式などさせ、問題解決することができることを指導する。
6年	・授業中に練習問題に必ず取り組み、できていない児童には個別に説明する。 ・朝学習等で計算の力を高めるためのプリントに取り組ませ、計算する力を高める。 ・定期的に復習問題に取り組ませ、知識を確実なものにする。	・既習事項を使って自分の考えをまとめたり発表したりすることができるように、説明し合う場面を作り、知識を活用することができるようにする。	・学習の最初に、「何をできるようになったらいいか、何を考えるのか」という見通しを確認し、主体的に取り組めるようにする。

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校理科）

1 理科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題	
○成果	
実験で用いる試薬や道具の特徴を捉えることができ、対照実験の方法を考える際に意見を共有して協力して活動する児童の姿が増えた。	
○課題	
- 全ての領域で区の平均正答率を下回る結果となった。基礎的な知識の定着に課題があるので、授業の中で確実な知識とするために、前時の復習をするとともに要点をおさえる。 - 実験の方法を改善したり、実験結果から推測したりして、説明する問題の正答率が目標値の半分以下であった。課題発見→仮説→予想→実験計画→実験→結果→考察→結論の学習過程を繰り返し指導し、児童が自分の言葉で表現できるようにしていく必要がある。	

2 理科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	- 基礎的な知識の定着を確実にする。 - 実験の技能に関する知識を増やし、正確な実験結果につながる。	実験前の予想と実験で得た結果を比較したり、他者の意見を聞いたりして自分の理解を深めていく力が弱い。	- 理科に対する主体的な取り組みの向上。 - 単元の内容を実生活に基づく経験と重ねてとらえる力が弱い。
改善方針	- 既習事項を振り返る時間を毎回の授業で取り入れ、学習内容のつながりを意識させる。 - 実験器具の使い方の根拠を明確にして説明し、正しく使う力を養う。	課題発見→仮説→予想→実験計画→実験→結果→考察→結論の学習過程を定着させる。	実験後の「考察発表会」を意識させ、実験での小さな気付きを持たせる。
改善策3年	- 一人一人が実験を行うことができるように活動場面を設定する。 - 器具や機器を正しく扱いながら実験を行い、得られた結果をまとめる。	実験や観察を通して、得られた結果を基に、差異点や共通点を見付け、表現するなどして考察する。	身近な生活から課題意識をもち、友達と協力しながら問題解決する。

4年	・植物や昆虫などは、本物の観察や、写真・動画教材を活用して、五感を使った学習をする。 ・電気や磁石は一人一人に実験教材を用意し、体験から理解を深められるようにする。	・「予想→実験→結果→振り返り」の形式でノートに記録できるように指導し、因果関係や規則性に気付けるようにする。 ・「どうしてそうなるの？」と問う場面を増やし、自分の言葉で説明する時間を取り入れる。	・実験や観察で「できた」、「分かった」を感じられるようにする。 ・身近なものに関連付けて考える活動を取り入れる。
5年	・実験器具の正しい使用方法を根拠とともに指導する。 ・既習事項を毎回導入部で確認し、知識の積み重ねを図る。	・実験の予想と実験結果を比較して、結果につながる要因や条件を考えさせる。 ・毎回の実験後に考察発表会を行う。ノートや ICT 機器に自らの考えをまとめた上で、他者の意見を聞いて考えを作り直す力を養う。	・ICTを活用したり、実物を用意したり、自分たちの経験を想起させたりすることで興味関心を高める。
6年	・小単元の終了ごとに自身で問題を作り、互いに問題を解き、解説者としても活動する場を作る。	・仮説を基に実験方法を考えたり、予想と比べながら考察したりすることを通して、自分の考えを表現することができるようにする。	・ICT機器を活用したり、実物を観察させたりして、自身の生活経験と結び付けて考えられるようにする。

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校生活科）

1 生活科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

○課題

- ・感じたこと、気付いたことを言葉で表現する機会を増やしていく。
- ・自然や資源が少ない環境の中で、地域の人材や環境を活用する機会を増やしていく必要がある。

○成果

- ・一人一人に朝顔やミニトマトの鉢を持たせて関わらせることで、植物の生長の変化を楽しみ、観察の視点を見付けることができた。
- ・植物を育てることで、植物への愛着をもたせることができた。
- ・学校探検を行い、学校に関心をもつことができた。
- ・季節ごとの遊びに感心をもち、楽しく遊ぶことができた。
- ・1年生に学校を案内する学校探検を通して、学校をより知ったり、1年生の世話をしたりして、上級生としての自分の役割に気付くことができた。
- ・町探検の学習を通して、自分の生活している町に関心をもち、町の人々や様々な場所に親しみや愛着をもつことができた。
- ・町探検の際に、保護者に付き添いをお願いして、安全に行うことができた。

2 生活科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・深い気付きにつながる学びの場を増やしていく。	・何を見てどう表現していいかわからない児童がいる。 ・感じたこと、気付いたことを言葉で表現する機会を増やしていく。	・学校に自然が少ない。 ・季節を感じる 것이 難しい。 ・自然や資源が少ない環境の中で、地域の環境を活用する機会を増やしていく必要がある。
改善方針	・学校だけではなく、地域の人材や環境を活用する。 ・友達との交流を取り入れていく。	・見る視点をはっきりさせる。 ・表現の仕方を共有していく。	・地域の公園や育てている植物を活用する。
改善策1年	・地域や学校の職員との交流を多くもつことで、より深く具体的な気付きにつながるようにする。	・観察する際、見る視点を定めたり具体的にどのように表現したりしたらよいかを示していく。 ・カリキュラム・マネジメントの視点で各教科との関連を図る。	・毎日継続して植物の世話をを行うことで、成長の変化に関心をもたせる。 ・国語科や図工科で身に付けた能力や技能を、生活科の表現活動に生かしたり、生活科での体験活動を国語科や図工科の題材に生かしたりしていく。

2 年	・野菜が変化し成長していることや、日常生活の中で発見したことを紹介・発表する機会を設ける。	・植物に心を寄せ、よりよい成長を願い、世話の仕方を考えたり身の回りにある物を活用し工夫して作ったりして表現する。町探検を通して気付いたことを自分なりの方法で表現し、それらを見て学ぶ機会をさらに増やす。	・生命のあるものとして継続的に世話をしようとしたり、身の回りにある物を活用し、友だちが喜ぶことを考えたりして工夫する。町の人々や様々な場所に親しみをもって関わり、自分の経験を伝える機会をもたせる。
--------	---	--	--

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校音楽科）

1 音楽科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

○成果

- ・技能については、歌では簡単な曲に親しみながら階名唱をしたり楽しく歌ったりする活動を積み重ねることで歌うことに抵抗なく参加できる児童が多い。リコーダーは、一音一音を習い、簡単なリコーダーの曲に触れながら演奏する意欲を高めることができた。
- ・思考・判断については、教科書教材を通して音楽の要素や用語を知ること、表現の手段を考えたり選んだりできるようになってきた。
- ・鑑賞については、楽曲を特徴付ける音楽の要素や旋律の特徴を説明し、児童が自らの言葉で表現する形をとった。語彙に課題がある児童も、自分の感じた思いに近い言葉を選んで書くことができた。
- ・音楽表現の意欲を高めるために、低学年では身体表現やリズム遊びを多く採り入れ、また、鍵盤ハーモニカは繰り返し練習をすることで基本となる奏法を身に付け楽しんで表現する児童が増えた。中・高学年では歌唱や楽器演奏の基礎的な技法の指導を積み重ねたことで、積極的に音楽表現をしようとする児童が増えた。

○課題

- ・歌唱・器楽の学習において、どんな表現をしたいか思いや意図をもたせ、協働しながら表現をつくり上げていく過程を大切にしつつ、個別の課題に応じた指導も行っていく。
- ・鑑賞の学習において、曲の感じを身体表現で表し、感じたことや聴き取った旋律の特徴や音楽の要素を言葉で表現したり説明できたりするために、音楽で使える言葉を掲示して使用していく。

2 音楽における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・歌う曲に合う表現を考え、その表現のためにどのような歌声にするのが良いのかを考え、発声・発音・表現すること。 ・器楽では鍵盤ハーモニカ・リコーダーともにタンギングと指遣いの習得していくこと。また、拍感をつかむこと。 ・音楽の要素や曲想を表す用語やリズム譜を含む読譜を定着させ、鑑賞の視点をもたせる。	・学年が上がるにつれて、読譜や技能、拍感やリズム感の習得を高め、自分なりの表現方法を工夫すること。 ・音楽を聴いて感じた曲想について、音楽の要素や曲想を言葉で表現する力を高める。	・丁寧な歌い方や楽器演奏を行い、すすんで音楽表現に取り組む態度を育むこと。
改善方針	・歌唱・器楽ともに基本的な奏法や読譜を繰り返し練習する。また、ICTを活用し、楽譜や音源をわかりやすく提示したり、個別指導を行ったりすることで技能の向上を図るようにする。 ・音楽の要素や曲想を表す言葉や用語を学習内で必ず使用するようにしたり、読譜の仕方をその都度説明して定着を図ったりする。	・楽曲にふさわしい音楽表現をするためにどうしたいか、どのような奏法を使うかなど、考えたことを伝えられるように身体表現の方法や語彙を増やす。 ・音楽を聴いて感じたことや気付いたことを身体表現や音楽の要素をもとにした言葉で表現できるようにする。	・音感や歌唱・楽器演奏など、音楽表現をするための意欲と自信の根拠となる技能を低学年から段階的に高める。
改善策 1年	・声も楽器であることを根気強く指導し、歌唱や鍵盤ハーモニカの演奏は、拍を考えて反復練習を積み重ねるようにする。 ・打楽器の奏法は、範奏を見せたり、リズムや拍を打つ様子を互いに見せ合ったりする。 ・階名唱など、簡単な楽譜を読むことを繰り返し練習させる。	・どんな表現をしたいか考え、身体全身で表現する、のびのびと自分の考えを発表するなど、交流する場を設定する。 ・鑑賞の視点を事前に確認してから、音楽を聴いて感じたことを、身体表現をしたり、低学年の言葉と音楽の言葉で結びつけて表したりする活動をする。	・歌や演奏を聴き合ったり認め合ったりする機会を多く設け、進んで学習に参加できたり、できるようになった達成感を認めたりすることで、楽しんで学習に取り組むことができるようにする。

2年	- 音程を意識して階名唱をしたり、鍵盤ハーモニカの演奏を繰り返し指導したりして、技能の習熟を図る。 - 打楽器の基本的な奏法の習得を通して、拍感を身に付けさせる。 - 階名唱を繰り返し行い、簡単な楽譜を読むことと合わせて、音楽の要素や曲想を表す単語を意図的に提示する。	- どんな表現をしたいか考え、身体表現をしたり、のびのびと自分の考えたことを表現したり、友達のまねをしたりする機会を与える。 - 鑑賞の視点を事前に確認してから、音楽を聴いて感じたことを、身体表現をしたり、低学年の言葉と音楽の言葉で結びつけて表したりする活動をする。	友達の歌や演奏を自分のものと聴き合い、認め合う機会を多く設け、音楽表現の楽しさを感じさせることで意欲的に学習に取り組むことができるようにする。
3年	- 歌唱は自然で伸びやかな声で歌うための体の使い方を身に付けさせる。リコーダーはタンギングや基本的な指遣いを繰り返し指導し、必要に応じて個別指導も行う。各楽器の音の特徴を理解し、奏法を身に付けさせる。 - 階名唱や視唱を行い、楽譜上の音と実際の音の関連を意識させる。	- 範唱や範奏や楽譜から楽曲の特徴を感じ取り、自分でどう表現したらよいか音楽の要素と結びつけて考えられるような選曲や楽譜の提示をする。 - 音楽を聴いて感じ取ったことを音楽の要素と結びつけて表現できるように、ワークシートや教室掲示の工夫をする。	階名唱や視唱、リコーダーの演奏や読譜を繰り返し練習させ、特にリコーダーは個別指導をすることでやればできるという意欲と自信がもてるようにする。
4年	- 歌唱は発声や発音に気を付けて無理のない声で歌えるように体の使い方を指導する。リコーダーは基本的な奏法やサミングが使われる音域の運指の指導を繰り返し行う。合奏を通して様々な楽器の奏法を身に付けさせ、音楽の種類ごとのリズムや拍の取り方の違いを感じさせる。 - 階名唱や視唱を行い、ICT を使い視覚的に分かりやすくして、楽譜上の音と実際の音の関連を意識させる。	- 楽曲の特徴を感じ取り、どう表現したらよいか音楽の要素と結びつけて、友達と意見を交換する活動を多くとり入れる。 - 音楽を聴いて感じ取ったことを音楽の要素と結びつけて表現できるように視覚的に分かりやすく、更に自ら考えることが難しい児童が選択できる掲示物を利用する。	互いに練習の成果を聴き合ったり、教え合ったりすることで、友達と積極的に関わる時間を設け、音楽表現をする事への意欲と自信をもたせるようにする。
5年	- 歌唱では学習を通して自然で無理のない声で表現するようにする。発声のための体の使い方を体得させるようにする。また、歌詞と旋律とのかかわりからフレーズを意識した表現ができるようにする。楽器の基本的な奏法は必要に応じて動画を配信し、難しい部分を繰り返し指導する。必要に応じて個別指導を行う。また、児童が興味をもてる楽曲を採り入れ、取り組みやすくする。 - ICT を使い視覚的に分かりやすくし、常に楽譜に着目することを通して音楽の要素や楽曲の特徴や曲想を表す言葉を繰り返し指導する。	- 範唱や範奏や読譜から音楽の特徴を音楽の要素と関連させて感じ取り、自分の表現に生かすために楽譜への書き込みやグループでの意見交換を多くとり入れる。 - 音楽を、曲想の変化や特徴を音楽の要素と関連させて聴き取ったことを表現するために、視覚的に分かりやすく、更に自ら考えることが難しい児童が選択できる掲示物を利用する。また、ワークシートを工夫して利用する。	個別の課題を明確にして歌唱や楽器の練習に取り組ませ、できることを増やすことで音楽表現への意欲や関心を高める。

6 年	・歌唱では学習を通して自然で無理のない声で表現するようにする。発声のための体の使い方を体得させるようにする。また、歌詞と旋律とのかかわりからフレーズを意識した表現ができるようにする。楽器の基本的な奏法は必要に応じて動画を配信し、難しい部分を繰り返し指導する。必要に応じて個別指導を行う。また、児童が興味をもてる楽曲を採り入れ、取り組みやすくする。 ・ICT を使い視覚的に分かりやすくし、常に楽譜に着目することを通して音楽の要素や楽曲の特徴や曲想を表す言葉を繰り返し指導する。	・範唱や範奏や読譜から音楽の特徴や物語性を音楽の要素と関連させて感受し、自分でどう表現するか考えるために、楽譜への書き込みやグループでの意見交換や発表を多く採り入れる。 ・曲想の変化や特徴を音楽の要素や学習したり、生活の中で聴いたりした音楽と関連させながら聴き取ったことを表現するために、視覚的に分かりやすくし、更に自ら考えることが難しい児童のために選択できる掲示物を利用する。また、ワークシートを工夫して利用する。	・個別の課題を明確にして歌唱や楽器の練習に取り組ませ、楽曲を仕上げることで達成感をもたせ、音楽表現への意欲や関心を高める。
----------------	---	---	---

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校図画工作科）

1 図画工作科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

○成果

- ・参考作品を大型スクリーンで見せ、指導をすることで、活動に意欲的に取り組むことができた。
- ・活動の流れと学習のめあてを掲示し、用具や材料の適切な扱い方を指導することで、児童が見通しをもって活動に取り組むことができた。
- ・絵の具の混色を呼びかけることで、自分の色を作ることを楽しむ児童が増えてきた。

○課題

- ・主体的に学習に取り組み、意欲的に取り組むことが難しい児童がいる。
- ・めあてや活動内容を理解し、進めることが難しい児童がいる。
- ・絵の具を使った色の組み合わせや、適切な水の量の調整などの技能面に課題がある。
- ・何を表すか発想し、作り始めるまでに支援が必要な児童がいる。

2 図画工作科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・表現したいイメージを基に、工夫していく活動へ結びつかない児童がいる。 ・絵の具を使った色の組み合わせや、適切な水の量の調整などの技能面に課題がある。	・めあてや活動内容を理解し、発想を広げることが難しい児童がいる。 ・自分の表現したいイメージを発想するまでに時間がかかるため、支援が必要な児童がいる。	・つくりだすことに楽しさを感じ、進んで意欲的に表現したり鑑賞したりする活動が、難しい児童がいる。 ・表現に難しさを感じた際に、投げ出してしまう児童がいる。
改善方針	・各題材で扱う用具や技法を指導し、繰り返し確認することで、表現活動を通した技能の定着を図る。 ・表現活動を通して、形や色の特徴を理解する造形的な視点を育て、用具や材料の使い方を工夫し、自分らしく創造的に表現できるようにする。	・いろいろな材料を触ったり、表現を試したりする機会を設け、どのように主題を表すか考える力を養う。 ・題材に合わせて幅広い作品の鑑賞を行い、自分の見方や感じ方を深め、新しい見方や感じ方をつくりだすことができるようにする。	・十分な材料を用意し、試行錯誤して表現できるように、環境を設定する。 ・鑑賞の時間を適宜設定し、自己の表現活動の参考にし、より良い表現をする意欲が高まるようにする。
改善策1年	・材料を使ってつくるときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付くようにする。 ・はさみ、のり、絵の具等の道具は、使い方を確認しながら、繰り返し使っていくことで定着させる。	・すすんで表したいことを見付けられるよう、材料を選択できるようにする。 ・友達と作品を見合うことで、自分の見方や表し方を広げるようにする。	・表したいことについて話したり説明したりする交流の時間を取り、自分のイメージを主体的に表現させる。 ・友達と作品を見合うことで、よいところを自分の作品に生かせる時間を取り入れていく。
2年	・材料を使ってつくるときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色などに気付くようにする。 ・ボンドやのりを使った素材の接着や、絵の具に混ぜる水の調節を繰り返し確認し、使い方を定着させる。	・材料と関わる時間を十分に設けて、児童が自分のイメージをもちながら思い付いた表現を試すことができる場を設定する。 ・鑑賞の時間を通して、自他の作品に関心を持ち、お互いの感じ方や考えのよさを認め合い、自分の見方や感じ方に活用するようにする。	・児童にとって身近なテーマや材料を取り上げたり、それぞれの表現のよさを全体で共有したりすることで、つくりだす喜びを味わい、学習活動に取り組むことができるようにする。

3年	・制作を通して、絵の具の水の加減や色の混ぜ方を工夫できるようにする。 ・様々な太さの筆や、クレヨンなどの用具を必要に応じて使用することで、表現の幅が広がるようにする。 ・制作を通して、金づちの適切な扱いに慣れるように、指導する。	・教師が実践し、表現の変化を見せることで、感じたことから想像を広げ、表したいことを見つけられるようにする。 ・表現を試す時間を設け、表しながら自分の表現の思いを広げられるようにする。	・題材に合わせて導入の方法を変え、材料の提示のタイミングを調整することで、児童が主体的に活動できるようにする。 ・授業の中で、参考作品や友達の作品を鑑賞する活動を設け、造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方を見つけ、自分の表現活動の参考にし、意欲的に取り組むことができるようにする。
4年	・制作を通して、絵の具の水の加減や色の混ぜ方を工夫できるようにする。また、モダンテクニックなどの技法を指導し、絵の具を使った表現の幅を広げる。 ・制作を通して、のこぎり、金づち、彫刻刀、カッターなどの用具の適切な扱いに慣れるように指導する。	・ワークシートを活用し、自分の考えを整理できるようにする。 ・絵の具のモダンテクニックを通して、自分のイメージに合った表現を見つけられるようにする。 ・ICTを活用して、視覚的に分かりやすい授業を展開し、鑑賞した作品例から、発想や構想が広げられるようにする。	・題材に合わせて導入の方法を変え、材料の提示のタイミングを調整することで、児童が主体的に活動できるようにする。 ・授業の中で、参考作品や友達の作品を鑑賞する活動を設け、造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方を見つけ、自分の表現活動の参考にし、意欲的に取り組むことができるようにする。
5年	・制作を通して、絵の具の適切な扱い方を定着させる。また、動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさなどを理解できるように、作品を見せながら指導をする。 ・ペンチ、電動糸のこぎりなどの用具の適切な扱い方を指導し、制作を通して、表現を工夫できるようにする。	・パステルや絵の具を重ねる絵の題材を通して、試行錯誤しながら自分の表現を深める姿勢を養わせる。 ・アルミ線を使った立体の題材を通して、形を変化させながら自分の表したいイメージをもつ力を養わせる。 ・ICTを活用して、視覚的に分かりやすい授業を展開し、児童が自分の表現の見通しをもつことができるようにする。 ・教師が実演したり、参考作品や児童の作品を紹介したりして、児童が表現の幅を広げられるようにする。	・段階的な制作の流れを例示することで、児童が自分のイメージをもち、意欲的に表現できるようにする。 ・友達の作品や参考作品などを鑑賞する時間を設け、表現の意欲を高める。

6年	・制作を通して、絵の具の適切な扱い方を定着させる。動き、奥行き、バランス、色の鮮やかさを工夫できるように、作品を見せながら、言葉で捉える機会を設ける。 ・彫刻刀、のこぎり、電動糸のこぎりなどの用具の適切な扱い方を指導し、制作を通して、表現を工夫できるようにする。	・ワークシートを活用し、児童がイメージを広げ、自分の発想や構想をしたことを整理し、自分の表したいテーマを見つめられるようにする。 ・ICT を活用して、視覚的に分かりやすい授業を展開し、児童が自分の表現の見通しをもつことができるようにする。 ・教師の実演や、作品の鑑賞を通して、児童が表現の幅を広げられるようにする。	・ワークシートを振り返り、自分たちの作品の途中経過を共有することで、自分の表現をより良くする姿勢を養わせる。 ・友達の作品や参考作品などを鑑賞する時間や、児童が自ら鑑賞の対象を選択する機会を設けることで、表現の意欲を高める。
----	--	--	---

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校家庭科）

1 家庭科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

○成果

- ・学びをその場で終わるだけでなく、次学期（長期休みを含む）に繰り返し復習を行うことで技術が定着する児童が増えた。
- ・ICT 動画等を活用しながら説明を行うことで授業の効率化を一部図ることができた。

○課題

- ・家庭科で学んだ知識を実際に家庭生活に生かしたり、これからの自分の成長について展望したりできるようにする。

2 家庭科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・生活上の課題を解決するための知識が十分とは言えない。	・食べるための調理の計画や調理の仕方・生活を豊かにする布を用いた制作の計画や製作について等、問題を見出して課題を設定、考えたことを表現する力が十分とは言えない。	・実習や体験学習には互いに協力して取り組むが、家庭生活への関心を高め、生活に活かしていこうという意欲は十分ではないため、家庭への啓発と共に、生かす方法を指導していく。
改善方針	・確実に知識・理解を定着させるために、既習の単元の知識・理解と関連付けながら学習を進める。 ・日々の授業において手助けするだけでなく、自ら考えられるような声がけを増やしていく。	・他教科で身に付けた知識や視点を家庭科と関連付けて、家庭生活中で活用できるように自分の生活に目を向けさせる。	・家庭で取り組む課題を与えて、家庭での協力を得ながらできる事が増えていることに気付かせ、生活で実践しようとする意欲をもたせるようにする。
5年	・ICT や動画等を活用しながら説明を細かく行うが、自ら考える授業展開を心がける。また、調理道具など、名称を覚えるだけでなく、安全で衛生的な取り扱い方なども考えるなど、学習での内容を関連付けながら覚えられるよう指導する。	・調べたことや体験したことから得た情報を、各自の生活や課題に応じて自分なりに考え、判断し表現できるような発表し合う場を設ける。	・授業での学習が家庭での生活に活かせるように、ワークシートや資料の活用・家庭での家事の実践等に取り組ませる。

6 年	・ ICT を活用し、動画や学習ソフトを使用して5年時の栄養素の学習と関連付け、食品の分類を再確認しながら献立の工夫などの単元の学習を進める等、発展の前に復習を取り入れるなどする。	・ 調べたことや体験したことから得た情報を、各自の生活や課題に応じて自分なりに考え、発表することができるような場の設定と十分取り組むことのできる授業内容を取り入れる。	・ 授業での学習が家庭での生活に活かせるように、ワークシートや資料の活用・家庭での家事の実践等に取り組ませ、家庭での取り組みを共有する場を設ける。
--------	--	---	---

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校体育科）

1 体育科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題	
○成果	
・学習カードや掲示物、動画等を用いたことで、授業のポイントや自分に必要な課題を理解し、自分のめあてに向かって運動する児童が増えた。 ・デジタル学習カードを活用したことにより、自分の手元で画面が見られるので児童間の意見の共有がやりやすくなり、共に協働して学び合う姿や課題解決に向けて自ら学ぶ姿が見られた。	
○課題	
・学年に応じた、技能を身に付けていくこと。 ・運動量の確保について。1時間の授業の構成の工夫を継続していく。 ・ポイントを意識し、自分のめあてを考える児童の育成。	

2 体育科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・運動の技能を身に付けること。 ・健康で安全な生活について学習した知識を、自分たちの生活に生かすことができない児童がいる。	・運動の動き方やポイントを知り、自分の力に合った課題を選ぶことができていない。	・勝敗を受け入れたり、互いを認め合ったりする態度を身に付けさせる必要がある。
改善方針	・休み時間には積極的に外遊びや体育館遊びをするよう学校全体で取り組んでいく。また、スモールステップで指導していく。 ・自分たちの生活について振り返らせ、身近なことを用いて自分事として捉えさせる。	・友達と見合ったり、教師が声をかけたりして、お互いに動画を撮るなどICTを活用したりして、よい動きや運動のポイントについて理解させる。 ・学習カードの振り返りから、自分に合った課題を決められるようにする。	・望ましい態度の児童を称賛し、クラス全体でも共有していく。また、安全面については怪我につながる恐れがあるので、厳しく指導する。
改善策1年	・教師が説明する時間を極力減らし、運動量を確保する。 ・イラストや写真カードを使って、きまりをわかりやすく伝える。	・友達と動きを見合う場面を設定し、よい動きを見付けられるようにする。 ・運動遊びにおいて、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を提示して選ばせる。	・児童がやってみたいと思えるような運動遊びを提示する。 ・めあてを「今日やってみたいこと」として自分で考えさせ。振り返りでできたことを価値づける。
2年	・基礎となる動きについて、見本を見せたり、動画を活用して説明をしたりするなど、視覚的に提示をする。 ・休み時間、給食、早寝早起き週間などの時間や活動を通して、健康や安全の大切さを繰り返し指導する。	・「できない」「苦手」を伝え合える環境、自分の力に合った練習やスモールステップの場をつくる。 ・「できる」「得意」な人が助言をしたり、周りの見本となったりする時間や場をつくる。	・学習前の自分と比べて何ができるようになったのかを意識できるよう授業前に確認をする。 ・「頑張っていた人」「上手だった人」など前向きな言葉で周りを見る振り返りカードをつくる。

3年	・動画資料や掲示物などを活用し、児童それぞれが自分に合っためあてをもてるようにするとともに技能向上のためのポイントを理解させる。	・友達のよい動きを見付けたり、励まし合ったりすることができるようにする。 ・学習カードで振り返りを行い、授業で頑張ったことと次に挑戦したいことを書かせる。	・スモールステップを踏んだ学習活動にする。苦手な児童が少し頑張ればできそうだという気持ちをもてるように授業を組み立てる。
4年	・動画資料や掲示物などを活用し、自分にあっためあてをもつとともに技能向上のためのポイントを理解させる。	・友達のよい動きを見付けたり、励まし合ったりすることができるようにする。 ・学習カードを用いて、授業の振り返りを行い、達成したこと、次の課題を明確にする。	・スモールステップで誰でも取り組みやすい運動から取り組ませる。
5年	・事前に「できるポイント」「できないポイント」を動画や手本で見せることで、具体的に理解できるようにする。	・体育ノートで振り返りをさせる。ポイントをどのように意識してやってみてどうだったかを具体的に書かせることで、自己解決へつなげる。	・安全に楽しく運動できるよう場の設定をしたりルールを工夫したりする。
6年	・技能が高い児童を手本として見せたり、動画を見せたりすることで視覚的にイメージをもたせる。 ・主運動につながる感覚づくりの運動を多く取り入れる。 ・けがの防止や心の健康について、生活リズムや自分の体験とつなげて指導する。	・学習カードを活用し、運動で工夫したところ、次回頑張りたいことなどを振り返らせる。 ・タブレットを活用して運動のポイントを示したり学び合いをしたりとすることで、課題を解決できるようにする。	・単元の最初にオリエンテーションを行い、めあて、学習の流れ、安全面の配慮についての指導を行う。見通しをもたせて学習させる。

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン（小学校外国語）

1 外国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

○成果

- ・大田区学習効果測定では、「活字体の小文字を書いている」という項目で、目標値を上回った。日頃の授業で、アルファベットの歌を通して、文字の判別が定着していると考ええる。
- ・大田区学習効果測定では、「音声で十分慣れ親しんだ、英語で書かれた語句の意味を理解している」という項目で、目標値を上回った。低学年から、「色」「動物」などトピックごとの学習の成果と考える。

○課題

- ・大田区学習効果測定では、「身近な簡単な表現を聞き、その意味を理解している」という項目で目標値を下回った。語彙の少なさが原因と考える。
- ・大田区学習効果測定では、「活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を身に付けている」という項目で、目標値を下回った。英単語を目にする機会や読む経験を増やしていくこと。

2 外国語科における課題・改善策

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題	・語彙を増やし、聞き取れた単語から、文脈を推測する技能を身に付けること。 ・既習の表現や単語を使って、コミュニケーションをしたり、読み書きしたりすること。	・英語本来の発音を身に付け、コミュニケーションを行うこと。 ・アルファベットの文字を正しく書いて、表現すること。	・ALTの発音をよく聞き、英語の会話に親しみ、意欲的に英語の活動に取り組むこと。
改善方針	・多様な表現や単語が書かれたワークシートを作成し、語彙を増やす。ALTの発音をしっかり聞き、繰り返し発話することで、英語のリズムに慣れ親しませる ・単元ごとに、学習したことを生かして作文活動を行い、発表することで、表現や英単語を定着させる。	・ALTの発音をよく聞いて、発話する学習を繰り返し行う。また、英語のもつ音の学習であるフォニックスを取り入れ、英語本来の発音を目指す。 ・作文を書く活動をする前には、文字の大きさ、書く場所、書き順を全員で共有し、定着を図る。	・繰り返し発話したり、発表したものを称賛したりして、少しずつ自信をもたせていく。 ・自分が言いたいことや書いたものを友達と共有したり、コミュニケーションを図ったりして、学び合いの場を設定する。

改善策5年	- 多様な語彙や表現を獲得できるようなワークシートを活動して、学習を深める。ALT の発話する英語を繰り返して発音して、英語のリズムを定着させる。多くの表現が書かれた基本文例を用意し、自分の気持ちに合うものを選んで、発話したり、書き表したりできるようにする。 - 学習内容の定着では、類似のテストを数回行うことで定着を図る。答えの解説をして、正しい答えを書き直していくことで、外国語の定着を図る。	「聞く活動」「話す活動」を充実させていく。多様な表現に慣れ親しみ、発話できるようにしていく。 - 英語のもつ音を学習するフォニックスの学習に取り組んでいく。ALT の発音をしっかり聞かせ、カタカナ英語とならないように、音の学習に取り組んでいく。	- 授業に集中して取り組めるようにする。集中力が持続できるように、1時間の授業の中に、「歌う」「聞く」「読む」「書く」「話す」など様々な活動を取り入れていく。 - 自分が書いたものを友達と共有したり、発表したりする場を設定する。学び合いの気持ちを育て、外国語学習への意欲となるよう支援していく。
6年	- 多様な語彙や表現を獲得できるようなワークシートを活動して、学習を深める。基本文例を活用して、自分の言いたいことを発話したり、書き表したりする場を設定して、定着を高める。 - 学習内容の定着では、繰り返し発話する場の設定と共に、テストでは、自分で学習したりする場を設定する。類似のテストを数回繰り返し行うことで、少しずつ外国語の定着を図り、自信を付けさせいく。	「書く活動」「読む活動」を充実させていく。自分が書いた英作文を友達と共有することで、自信をつけさせていく。 - 英語のもつ音を学習するフォニックスの学習に取り組んでいく。簡単な3字短母音の単語を読めるように取り組んでいく。	- いつか将来、外国語を使ってコミュニケーションを図りたいと思えるように、友達に通じた嬉しさをたくさん体感できるような場の設定を行う。 - 外国語を話せる能力だけでなく、世界の出来事などを紹介し、文化の違いにも着目して、国際理解の心情を養う。